

(道徳科)

**<わかる>から、<つなぐ>、<生かす>道徳学習の創造  
～学びのループリック化から作る授業づくり～**

大阪市立堀川小学校 東恭兵 池野弘子 五代啓太

## 1. 目指す子ども像

「うそをついてはいけません。」「正直にすることは善いことです。」道徳の学習で学ぶ道徳的価値について、何が善くて何が悪いかを子どもたちは分かっている。一方、なぜ善いのか、なぜ悪いのかについては子どもたちそれぞれでいろいろな考えを持っている。「そんな考え方もあるなあ。」「そういうことだったのか。」議論する過程には知的なおもしろさがある。善い悪いを判断するのは自分である。正直を例にすると、正直にできなかった経験、正直にすることの難しさなど、今までの自分や社会環境と照らし合わせながら考えるであろう。なぜ善いのか、なぜ悪いのかを考える学習は、道徳的価値を自分自身とつなぐことでより深まるといえる。友達と自分、過去の自分と現在の自分、社会と自分など、何かとつながり、考えることで新しい発見が生まれ、新たな自分と出会うことができる。新たな自分との出会いに喜び、人間としての生き方に学んだことを生かそうとする子どもの育成を本研究では目指している。

## 2. 研究主題設定の理由

### ①子どもの実態から

本校の子どもたちはここ2年間の道徳研究の成果により、道徳の授業が好きだと答える子どもや道徳学習での話し合いで大切なことが分かったと答える子どもが増えてきている。しかし、道徳的価値についての理解のみで終わってしまっていることも多い。道徳的課題を自分自身の問題として捉える学び、学習したことをもとに自分を振り返り、自分自身の課題について考える学びに発展させていき、子どもたちが自分ごととして道徳的課題に向き合えるようにしていきたい。

### ②昨年度までの課題から

昨年度の道徳研究では、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができる学習展開の工夫をテーマに、主に指導法についての研究を行った。しかし、子どもたちの話し合いの様子を見ていると、わかったことの発表のし合いに終わってしまうことも多かった。多面的・多角的に考える視点を持つことはできたものの、いろいろな考えと自分の考えをつないで、より深める学習にまでは至らないことも多かった。

### ③今日的な教育課題から

道徳の教科化がスタートし、評価が注目されている。特別の教科道徳の目標として「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」が示された。この目標をもとに評価の観点を作り、評価していくことになる。本研究は子どもたちの学びの様子を〈わかる〉〈つなぐ〉〈生かす〉の観点でループリック化し、それらを見取ることで授業改善につなげることを主眼としている。子どもたちの学びを見取ることは、今年度から始まる評価にも生かすことができると考える。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

#### 視点 <つなぐ><生かす>学びに到達する指導（しかけ）の工夫

これまでの2年間の道徳研究により、道徳的価値について<わかる>指導の工夫について追求し、発問や板書の工夫等を学んできた。本研究では<わかる>をさらに深める<つなぐ><生かす>学びの充実を目指す。<つなぐ><生かす>学びにはどのような指導（しかけ）が有効なのかを考えていく。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### （1）研究の成果

##### ○導入の工夫

今年度は主に「価値への導入」、中でも「今日の学習で考えさせたい課題」について、現在の自分たちとどのような関わりがあるかを考える導入を図ってきた。「今日は何について考えたらいいのでしょうか」と直接、課題へと向かわせる導入も行っている。このような導入を行った結果、考え、議論する時間を確保すること、<生かす>を意識させるための導入とすることにつながった。

##### ○考え、議論する活動の焦点化

これまでは、教材の内容を順に読み、主人公の行動などについて「なぜそうしたのか」「なぜそうすることがいいのか」などについて、考え議論してきた。今年度は、考えさせたい部分を焦点化させるために、場面にかかわる発問を少なくし、価値理解・自分理解にかかわる発問の部分に時間をかけた。また、この二つの点について書く活動・交流する活動を行うことで、考えを深め、ねらいにせまることができた。

##### ○板書の構造化

板書については、子どもたちの意見を並べるのではなく、この時間の中での気づきは何であったか、どのように深まったか（道徳的価値の変容）が見えるように、また、道徳的価値と自分をどう結びつけているのかが見えるように構造化することを行った。その結果、より深くわかる子が増え、生かそうとする意欲へとつながった。

##### ○学びのループリック

具体的な学びの姿をイメージした学びのループリックを作成することにより、それぞれの過程ごとにどんなねらいでどんな学習活動をするのかを意識して授業を行った。また、授業後には、<わかる><つなぐ><生かす>のそれぞれの観点で作成した評価規準と照らし合わせながら、一人一人がどのくらい深まっているかという兆しや意欲を見るようになった。ループリックについては、授業を重ねる中で少しずつ変化している。

#### （2）今後の課題

<生かす>学びをどのように引き出すかという点については難しさを感じている。<生かす>学びには向かいにくい教材、深く<わかる>ことが重要な教材など、教材を分析し、それに合った手立てを考える必要がある。<わかる><つなぐ><生かす>の意味を常に確認しながら授業を組み立て、子どもたちの考えをつなぎ深めていく授業が求められる。